

Conference Report

学界情報 国際会議レポート

EPE 2011-The 14th European Conference on Power Electronics and Applications August 30 – September 1, 2011, The International Convention Centre, Birmingham, UK

EPE2011 はヨーロッパにおけるパワーエレクトロニクス関連の主要な国際会議で2年に1度開催されている。今回は8月30日から9月1日まで3日間開催された。先立って29日にはチュートリアルも行われた。会場は英国中央部、ロンドンに次ぐ大都市バーミンガムの国際会議場、ホストはノッチンガム大学である。この会議のテーマは、「20-20-20」である。それはヨーロッパ連盟が2020年までに行うこと宣言した炭酸ガス排出20%減、エネルギー消費20%減そして、再生可能エネルギーのシェアを20%に増やすことを意味している。これを受けてのスローガンである。

EPE2011 は約600の論文が発表され、参加者は約1000人、論文の採択率は70%であったと聞く。国別論文数は表1を参照されたい。初日のキーンोट Power Electronics for Aerospace から始まり、2日目が Power Electronics in the Automotive Industry でトヨタ自動車の発表、3日目が Power Electronics for Smart Grids and Renewable Energy Sources と3つの大きなテーマから始まった。前回バルセロナでの EPE2009 でもそうだったが、パワエレが航空機産業界から熱い視線が寄せられている。このヨーロッパの動向は注目すべきである。航空機の燃費、騒音、保守性などの諸問題解決に、パワエレ化がカギになるとされる。

600件の発表の内、420件はパネル発表であったが、15%程度は発表者が来ない所謂 No Show、これは先々週までのロンドン・バーミンガムでの暴動事件の後遺症か？ 発表論文は航空機関連、SiC デバイス応用、コンバータ、DCAC 変換、HVDC、Energy Efficiency、Microgrid、FACTS、Wide Bandgap Semiconductor Devices、Renewable Energy Sources、Matrix converters、Energy Management in Road Vehicles、Power Generation and Storage Systems、Motor Design Optimization、Soft Switching Converters、Active Filter、Motion Control Robotics、等々、実に広いパワエレの世界を網羅した形である。

昼食時には会場内パネルセッションまたは企業展示会場でのビューフェが用意されており、時間を節約しながら交流もできる場となっていた(図1)。企業展示は日本からは三菱電機と富士電機、横川測定器の3社のみであった。

初日午前中のオーラルセッション Contactless Power Supply は会場いっぱい立ち見の出るほど盛況であった(図2)。2日目の夜はバンケットで、郊外にある国立モータサイクルミュージアムに出かけた。イギリス製の往年の名2輪車が数百台展示されており、我々、月光仮面世代には憧れのイギリス製オートバイ、それをワイン片手に見て回るのは楽しい。英国では既に電気オートバイの本格的な高速レースが開催

されており、次は電気オートバイの時代が来ると言っている。その後はフランクなディナーで参加者間の情報交換と親睦は夜遅くまで続いた。

次回 EPE2013-ECCE Europe, Lille, France は2013年9月3~5日に北フランスのリエールで開催される予定である。Digestの締め切りは2012年12月1日である。

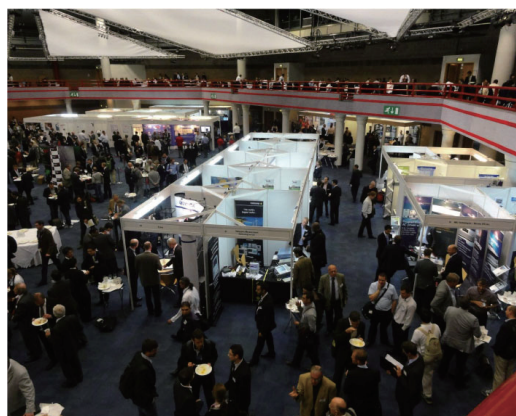


図1 EPE2011 会場での昼食時間、企業展示風景



図2 発表会場の熱気

表1 筆頭著者国別論文数

GERMANY	96	SWITZERLAND	30
UNITED KINGDOM	75	ITALY	21
FRANCE	67	FINLAND/USA	19
JAPAN	48	CHINA /SWEDEN	18
SPAIN	31	NETHERLANDS	15

47 Countries Total 602 papers

嶋田 隆一(東京工業大学)
(平成23年9月15日受付)